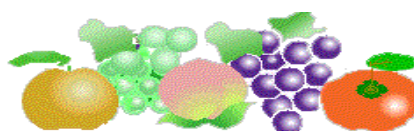


令和5年度 しらかわ果樹情報第4号



令和5年6月15日

福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 向こう1か月の天候の見通し（6月10日から7月9日まで）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。

2 発育状況

果実肥大は、どの品種も暦日比較では平年より大きいですが、満開後日数比較ではどの品種も平年並となっています。

表1 管内の各品目の果実肥大状況（6月5日時点）

	あかつき		幸水		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年(mm)	40.1	34.6	24.9	28.1	25.5	28.1	29.4	30.4
平年(mm)	30.6	22.6	20.3	21.8	20.6	20.8	22.3	19.9
平年比(%)	131	153	123	129	124	135	132	153
昨年(mm)	35.3	28.1	20.8	22.9	21.8	22.7	24.4	23.0

注) 調査地点：「あかつき」「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

3 栽培上の留意点【凍霜害の事後対策として、新梢管理を徹底しましょう！】

(1) 共通

ア かん水

- 5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、**1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施する。**保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

イ 草刈り、マルチ

- 樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる）。
- 刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。

(2) モモ

ア 仕上げ摘果

- 果樹研究所では5月31日に硬核期に入ったとみられる。仕上げ摘果が完了していない園地では摘果を控え、修正摘果で対応する。
- 双胚果や核障害の発生は、園地や品種によって異なる。**発生が多い場合は、着果量をやや多めに残し、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とする。**

イ 樹勢回復対策

- ・樹勢が弱い樹は早めの摘果を心がけ、着果数を制限し新梢生育を促す。**県果樹研究所の調査では、満開後50日における「あかつき」の新梢長は平年比56%と平年より短いため（5 ページ表 5 参照）、適正着果数に留意する。**
- ・摘果の際は樹勢を考慮しながら過剰摘果にならないように注意する。
- ・土壌の乾燥が続く場合はかん水の実施や樹冠下マルチが有効となるので適宜実施する。

ウ 収穫前管理

- ・袋かけを必要とする品種では、仕上げ摘果終了後に速やかに袋かけを行う。
- ・各園地及び品種ごとに果実の成熟に十分注意し、枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シート設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施する。

(3) ナシ

ア 仕上げ摘果

- ・予備摘果が終了次第、着果量等を確認して仕上げ摘果を行う。着果量は、「幸水」「豊水」で満開後50日頃までに最終着果量の2～3割増になるようにする。
- ・**県果樹研究所の調査では、満開後50日後における「幸水」「豊水」の新梢長は予備枝・不定芽ともに平年より短い（5 ページ表 7 参照）。着果過多とならないように樹勢を考慮しながら摘果する。**

イ 新梢管理

- ・新梢管理として側枝基部（20～40cm の範囲）の背面に発生した新梢のせん除を行う。
- ・主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、側枝更新のための候補枝の確保が困難な場合には、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し、冬季せん定時に利用する。
- ・**新梢のせん除は、満開45～60 日後までに行うと花芽分化を促進するが、満開後60日以降では樹勢低下や果実糖度の低下に結びつきやすいので注意が必要である。**予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに伸長の良好な新梢を1本に整理する。

(4) リンゴ

ア 仕上げ摘果

- ・満開後60日までに実施する。摘果の程度は最終着果量の1～2割増しとする。
- ・果形や肥大状況等をよく観察しながら丁寧に実施する。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率低下の原因となるため、注意が必要である。**結実の少ない園地では着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に最小限度の摘果を行う。**

イ 新梢管理

- ・主枝や亜主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝をせん除し、**日当たりを確保するとともに薬剤の通りを良くする。**

(5) ブドウ

ア ジベレリン処理

- ・樹の中で開花にばらつきがある場合は2回程度に分けて実施する。

イ フルメット処理

- ・樹勢が弱い樹では、果粒肥大が劣るおそれがあるので、ジベレリン2回目処理に加用する。その場合は、着色遅延が起こりやすいので、着果過多とならないよう注意する。

ウ 穂軸長の調整、予備摘粒

- ・1回目のジベレリン処理後、実止まりが確認され次第、穂軸長の調整と予備摘粒を実施する。「巨峰」の穂軸長は7cm程度を目安に上部の支梗を切り下げる。予備摘粒は2回目のジベレリン処理までに内向き果、小果、傷果等を取り除く。

エ 土壌水分管理

- ・極端な乾燥が続くと果粒肥大が抑制され、品質低下を招く。特に、果粒肥大第I期の土壌の乾燥は、果粒肥大への影響が大きいため、10日程度降雨がない場合は、かん水を行う。

4 病害虫防除上の留意点（使用薬剤は防除暦を参照してください）

本年は生育が平年よりも大幅に進んでいるため、防除が遅れないよう注意しましょう！

（1）病害

ア モモせん孔細菌病

★管内の春型枝病斑の発生は、枝病斑除去、防風ネット、秋期防除を組み合わせた総合防除実証ほど昨年より少ない（表2）。新梢葉での発病は、実証ほど昨年より多く、対照ほどは昨年より少ない。今後、梅雨期に入り降水量が多くなると感染が増加するおそれがあるため引き続き注意が必要である。病原細菌は降雨で拡散するため、防除対策は降雨前に行う。

- ・ 薬剤防除は、気象情報に留意しながら降雨前の予防散布を基本に10日間隔で行う。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意し、使用する薬剤を選択する。
- ・ 新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい状況であるが、春型枝病斑の発生は7月ごろまで長期間にわたるため、見落としがないよう丁寧に樹冠内部を確認する。発病部位の取り残しは被害拡大につながるため、見つけしだい取り除き、密度低減に努める。
- ・ 発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行う。

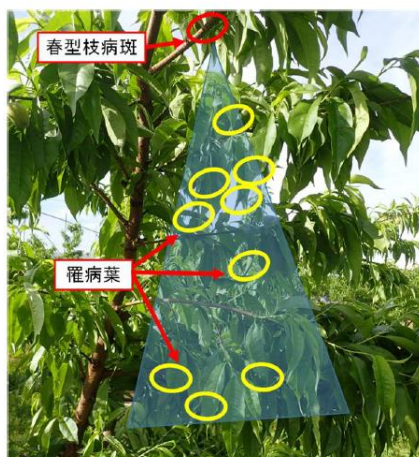


表2 モモせん孔細菌病の発生状況（白河市、品種：あかつき）

調査地域	春型枝病斑発生率（%）			新梢葉発病率（%）		
	本年	昨年	一昨年	本年	昨年	一昨年
実証ほ（東上野出島）	0.5	1.0	4.0	1.3	0.5	5.0
対照ほ（同上）	3.5	2.0	4.0	7.9	25.5	4.6
実証ほ以外（本沼）	0.5	0.5	1.5	0	0	2.3

（調査日：本年5月25日、昨年5月23日、一昨年5月27日）

図1 春型枝病斑とその直下における新梢葉での発病

イ ナシ黒星病、輪紋病

- ・ 梅雨期に入り、降水量が多くなると、二次感染により黒星病の発病が増加するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除き、園外に持ち出すなど耕種的防除を徹底する。特に、「幸水」では満開50日後頃から本病に対する果実の感受性が高まり、重要防除時期にあたるため、防除対策を徹底する。
- ・ 輪紋病も梅雨期が重点防除期にあたるため、6月中旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布する。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行う。

ウ リンゴ褐斑病

- ・ 梅雨期に入り降雨が増加すると、二次感染を繰り返すおそれがあるため、本病の発生が既に認められる場合は防除対策を徹底する。

エ リンゴ腐らん病

- ・ 梅雨期は感染拡大のおそれがあるため、発生状況を観察し、発病部位は徹底して取り除く。摘果後に果柄が残っている場合、そこから病原菌が侵入するため、離層形成部位から摘果するように心がける。

- オ モモホモプシス腐敗病、灰星病**
- ・梅雨期は重点防除期であるため、6月中旬に防除効果の高い薬剤を使用する。伝染源となる芽枯れや枝枯れが確認される場合は、せん除し適切に処分する。
 - ・灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、6月中旬以降、防除薬剤を十分量散布し防除の徹底を図る。
- カ ブドウ晩腐病**
- ・梅雨期は本病の重点防除期にあたるため、降雨前の散布を徹底する。併せて、耕種的防除対策として、幼果期の散布後にカサ掛けを行う。
 - ・果面の汚れを防ぐため、袋かけが終了するまで展着剤は加用しないようにする。

(2) 虫害 (表3参照)

- ア モモハモグリガ**
- ・5月下旬のモモ新梢葉における発生は場割合は、平年よりやや高く（5月30日付け令和5年度病害虫発生予察情報・予報第2号）、引き続き注意が必要である。
 - ・第1世代成虫の誘殺盛期は5月6半旬頃と予測され、第2世代幼虫の防除適期は6月1半旬頃と推定される。また、**第2世代成虫の誘殺盛期は気温が2℃高く推移した場合、6月5半旬頃と予測され、第3世代幼虫の防除適期は6月5半旬ごろと推定される。**
 - ・本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。
- イ ナシヒメシンクイ**
- ・**第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、6月3半旬ごろと予測され、第2世代幼虫の防除適期は6月5半旬ごろと推定される。**
 - ・本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行する。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除を徹底する。
- ウ モモノゴマダラノメイガ**
- ・被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、**10日間隔で2～3回防除を行う。**被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋める。また、前年に被害が多発した園地では袋かけを早急を実施する。
- エ ハダニ類**
- ・ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行う。**ナミハダニは梅雨明け後の草刈り直後に防除を徹底する。**

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和5年5月31日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ				ナシヒメシンクイ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月27日	6月1日	6月21日	6月25日	6月12日	6月21日
平年並	5月27日	6月1日	6月24日	6月29日	6月14日	6月25日
2℃低い	5月27日	6月2日	6月28日	7月4日	6月18日	7月1日

起算日：モモハモグリガ 第1世代 4月7日、第2世代 5月27日
 ナシヒメシンクイ 第1世代 4月11日（演算方法は三角法）

5 気象概況

5月6半旬から6月2半旬までの平均気温は18.9℃で平年より1.1℃高くなりました。降水量は76.5mmで平年比124.6%と多くなりました。日照時間は97.5時間で平年比109.6%となりました。

表4 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
5	6	18.2	17.2	1.0	23.1	22.9	0.2	13.6	12.2	1.4	5.0	24.0	21	33.3	35.9	93
6	1	18.5	17.8	0.7	23.3	23.2	0.1	12.5	12.9	-0.4	48.0	17.7	271	37.7	28.4	133
	2	19.9	18.2	1.7	25.4	23.4	2.0	15.2	13.9	1.3	23.5	19.7	119	26.5	24.7	107
平均・合計		18.9	17.7	1.1	23.9	23.2	0.8	13.8	13.0	0.8	76.5	61.4	124.6	97.5	89.0	109.6

6 農業総合センター果樹研究所の生育状況（6月1日現在）

表5 ももの新梢伸長（満開後50日）

品種	新梢長（cm）			展葉数			葉色（SPAD）			新梢停止率（%）		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	5.7	10.1	56	10.9	13.2	83	42.3	42.0	101	0	28.2	0
ゆうぞら	7.0	11.0	64	12.2	13.2	92	42.2	41.6	101	2.5	28.6	9

注) 平年は、1996～2020年の平均値

表6 ももの核障害発生状況（品種：あかつき）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2023	核頂部亀裂	17.0	35.0	30.0	15.0	-	-	-	-	-	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

表7 なしの満開後50日における新梢生長

品種	予備枝新梢長（cm）			不定芽新梢長（cm）			予備枝葉数（枚）		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	68.0	79.3	86	68.5	72.7	94	20.2	22.2	91
豊水	75.0	84.1	89	69.1	71.3	97	20.6	22.4	92

注) 平年値：「幸水」の新梢長は1990～2022年、葉枚数は1998～2022年、「豊水」の新梢長は1991～2022年、葉枚数は1998～2022年の平均値

表8 リンゴの新梢長及び新梢停止率

品 種	満開後 日数	新梢長（cm）				新梢停止率（%）	
		本年	昨年	平年	平年比	本年	昨年
つがる	20	7.2	14.4	13.1	55	5.6	2.8
	30	12.9	20.4	18.0	72	13.9	52.8
	40	15.4	22.0	20.4	75	83.3	83.3
ふじ	20	11.2	16.6	15.6	72	9.3	54.2
	30	17.0	22.5	18.9	90	22.2	83.3
	40	19.6	23.6	19.5	101	88.9	91.7

注) 新梢長平年値は、1996～2022年の平均値
供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 17年生
「ふじ」/マルバカイトウ 20年生

表9 りんごの結実状況

品 種	結実果そう率 (%)			中心果結実率 (%)		
	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
つがる	99.7	100	87.9	97.2	97.2	91.4
ふ じ	100	100	81.9	95.0	86.2	75.3

注) 平年値は、結実果そう率では 2005～2022 年の平均値
 中心果結実率では 1998～2022 年の平均値
 供試樹：「つがる」/M.26/マルハカイトウ 17 年生
 「ふじ」/マルハカイトウ 20 年生

表10 「巨峰」の新梢生長

発芽後 日数	新梢長 (cm)			展葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
40	52.0	60.4	86	9.4	9.2	102
50	85.2	84.3	101	12.5	12.1	103

注) 平年値は 2006～2022 年の平均値

表11 ぶどうの開花日

品 種	開花始め			満開		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰	5月30日	6月4日	6月1日	6月4日	6月8日	6月11日
あづましずく	5月31日	6月4日	5月31日	6月3日	6月9日	6月4日
シャインマスカット	6月4日	6月7日	6月6日	未	6月11日	6月15日

注) 平年値：「巨峰」は 1998～2022 年、「あづましずく」は 2004～2022 年、
 「シャインマスカット」は 2009～2022 年の平均値

★関連情報のホームページについて (URL、もしくは QR コードからアクセスください)

○県南農林事務所公式インスタグラム

県南地域の農林水産業に関するトピックス (果樹栽培に係る
 注意喚起等も掲載しています！)



○県南農林事務所農業振興普及部

農業技術情報、しらかわ果樹情報、果樹の発育ステージなど
[https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/
 kennan-nougyoushinkouhukyu/kaju-info.html](https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/kennan-nougyoushinkouhukyu/kaju-info.html)



○福島県病虫害防除所

病虫害の発生予察、防除対策、発生状況など
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

